

## 「全国市町村教育長セミナー」を開催

↓来賓を代表してあいさつする鈴木前文部科学副大臣



昨年12月23日から25日までの3日間、大学主催としては全国初となる「全国市町村教育長セミナー」を神戸サテライトで開催した。地方分権化が進む教育行政では各市町村教育長の役割がより重要視されていることから、セミナーは教育長のリーダーシップを育成するとともに、情報交換の機会を提供することが目的。北は北海道から南は鹿児島県まで全国32市町村の教育長が参加した。



↑最終日の鼎談形式の講義では受講者から多くの質問の聲が挙がった

初日は、北城恪太郎日本IBM株式会社最高顧問が「経営のイノベーションとリーダーシップ」、鈴木寛前文部科学副大臣が「日本の教育の課題と展望」をテーマに講話。出席者は熱心に耳を傾け、活発な質疑応答を繰り広げた。

2日目は、兵教大教授陣が「国民社会の変容と公教育経営の転換課題」「学校組織マネジメントの考え方と進め方」「学校と教育委員会の連携に基づく生徒指導の進め方」の3題について講義、演習を行った。

最終日は、前川喜平文部科学省総括審議官（現官房長）と小川正人放送大学教授を特別講師に招き、兵教大教授と3人で「教育委員会の抱える諸課題について—教育財政、教職員人事等—」をテーマに鼎談形式で講義・演習を実施した。このセミナーは来年度以降も開催する予定。

「あるまちづくり協議会から支援を要請されたイベントの企画や地域の課題解決などに対し、構成団体に協力を呼び掛けていく」という。

↓高校生や大学生、構成団体の関係者がリレー形式で、加東市への思いやコンソーシアムに対する期待を口にした



「本学教員の知と学生のパワーがまちづくりにどう生かされるのか、私も期待しています。また、本学が他団体の協力を得て、新たな学びをつくることも考えられます。例えば、農家の方において、学生に農業実習を体験させるのもいいでしょう。」

「生産現場を知ることが、食育を進める上で大いに役立つと思います」と加治佐学長。フォーラム後に開いた交流会の盛況ぶりに、地域の兵教大に対する関心の高さがうかがえたと言いつつ、「学食や附属図書館、教材文化資料館など一般開放している施設も充実させていきたいです」と力を込める。

## 学校教育学部同窓会30年記念祝賀会を開催

学校教育学部が平成23(2011)年度に第30期の入学生を迎えたことを記念し、1月7日、同窓会がホテル北野プラザ六甲荘(神戸市中央区)で祝賀会を開催。卒業生や現役生、教員ら約120人が参加した。卒業生による声楽や映像を使っのての大学紹介、同窓会活動報告などに続いて、元女子サッ

カー選手で、なでしこジャパンの主将を務めた池田浩美さんが「ハントタッチでつないだ、なでしこ佐々木ジャパンのキャプテンシー」と題して記念講演。懇親会は、大学教員と学生による管弦楽演奏に始まり、各期の代表者がスピーチした。会場は大いに盛り上がり、参加者は旧交を温めた。



↑卒業生(第1期～第7期)と加治佐学長ら教員陣の記念撮影



市内各種団体 輝く加東 まちづくりコンソーシアム

うれしの  
交差点

兵庫教育大学と地域の交流ページ

↓フォーラムでは児童生徒から加治佐学長への質問コーナーも。「なんで学長になれたのですか」との屈託のない問いには学長もタジタジ



大学の知とパワーを  
まちづくりに生かす

昨年12月17日、加東キャンパスの講堂で「輝く加東 まちづくりコンソーシアム」の設立記念フォーラムが開催された。

加東市が市制5周年を機に立ち上げたコンソーシアムは、市と兵教大が中心となり、市民やさまざまな団体と協働しながらまちづくりを進める組織。フォーラムには各団体の関係者ら約300人が参加。荒木勉コンソーシアム会長（兵教大名誉教授）のあいさつに始まり、リレートークでは兵教大の学生や留学生、高校生、NPOらがまちづくりへの思いを語った。

「地方の小さな市で国立大学があるのは珍しいことです。大学のある優位性をまちづくりに生かそうと考えました」と設立の趣旨を語る安田正義市長。「市の子育て支援講座に兵教大の先生に協力をいただくなど、個々のお付き合いはありましたが、今」

後は大学全体と結び付いて教育や産業振興、健康づくりなどあらゆる分野で連携を深めていきたいです」と続ける。

加東市の要請に加治佐哲也学長も二つ返事で応えた。「本学は開かれた大学を掲げて公開講座や講師派遣などに取り組んできました。コンソーシアムの設立は地域貢献活動の可能性を広げ、本学がリージョナルセンター（地域拠点）としての機能を高めることにつながると思いました」

コンソーシアムは市と兵教大のほか、市商工会や市観光協会、JAみのり、米田ふれあい協議会など14団体で構成される。

今後、コンソーシアムは定期的に会合を持ち、活力あるまちづくりに向けたさまざまな取り組みに対して、各団体から何ができるのかを聞きだし、効果的なマッチングを図る。さらに、小学校区ごとに

↓モニュメントは、日本の中心に位置する加東市から発信する“教育の光”が知恵・学問・教育を司る女神を通して世界に向けて放たれる様を表している



↑若者人口の維持、留学生との国際交流などを例に挙げ、「兵教大が地域にもたらす影響は大きい」と語る安田市長

↑コンソーシアムの設立を機に、加東市と兵教大は市内を通る東経135度子午線を“教育子午線”と命名。村上裕介准教授(文化表現系教育コース<芸術系教育分野>)が制作した教育子午線モニュメントを学園道路沿いの東野街角公園に設置し、フォーラムに先駆けて除幕式を行った